

私は阿弥陀様のことをすぐに忘れるが、阿弥陀様は私のことを決して忘れない

あなたの「生きる」を支えるお寺

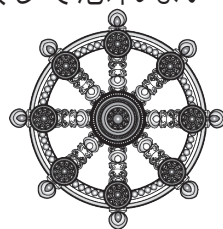
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.362



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

月例法話座談会

みんなでお話ししながら

仏教を学びましょう

七月十八日（土）

午後二時から

午後四時まで



お寺の枠を超えた法友とのであい

こんき常例布教

7月は諸事情により休座いたします

住職法話

われかくのごとく
我聞如星

「また会える」が生きる力に

いのちの行方

「浄土真宗」という言葉、皆さんは宗派の名称を表す言葉だと思っておられませんか。ならば正解です。私たちの宗派の正式名称は「浄土真宗本願寺派」です。しかし、この名称を私たちは、明治10年からです。まだ150年間ほどこしか、浄土真宗という語を宗派の名称としては使っていないのです。

浄土真宗という言葉自体は親鸞聖人が主著『教行信証』の中ではつきりと記述してくださっていますから、もう800年間の歴史がある言葉です。しかし、

その頃はまだ本願寺という名前のお寺さえ存在しませんでした。ましてや、浄土真宗という仏教宗派があるはずありません。では、宗派の名称として使われる前の元々の意味は何なのでしょう。

浄土真宗という言葉、それは教えを表した言葉です。「浄土の真を宗とする」という意味。阿弥陀仏が命をかけて完成された、すべての人の苦悩を完全に消滅させ、完全に安らかな状態にするこのことができる世界である浄土を、私の人生のたった一つの生きるよりどころとするということなのです。

では、お浄土を生きるよ

りどころにするとはどういうことかという、私の限りある命の確かな行方を、阿弥陀仏のお浄土であると思いきや、疑いなくいただくということです。という「なんだ、死んだ後のことですか」と笑われそうだが、そうではありません。死の意味を問ひ知るということは、同時に生まれ生きることの意味を知るということです。ですから、己が命の間違いない行方がお浄土であると知らされることは、この限りある命をどのように生きるのかを知らされることでもあるのです。

私はしあわせ

さる六月一日、私は臨床宗教師の実習のために宮城県仙台市にある本願寺仙台別院を訪れていました。

そこで、大友さおりさんという女性のお話を聞くご縁をいただいたのです。大友さんは、二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災の際の天津波で、ご両親と祖母、そして生後八ヶ月の息子さん雅人くんを亡くされました。お父さんは、発災一週間後に遺体安置所で、お祖母さんは半年後にDNA鑑定によってご遺骨で見つかりました。しかし、お母さんと雅人くんは未だ行方不明のままです。

震災の記憶のお話、それは話す方も聞く方も共に心がヒリヒリと痛みます。思い出すことが辛い記憶、どんな辛いお話をされるのだろうか、と正直身構えていた私でした。ところが、さおりさんは「今、私はしあわせです」と笑顔で語り始められたのです。「えっ？」

私は、そのさおりさんの言葉に驚かされ「無理をされているのでは」と心配になりました。しかし、お話を聞くうちにそれが無理をされているのではないことがわかってきたのです。

一瞬にしてご家族を大津波で亡くされた大友さんは、想像を絶する心の苦痛に生きる気力を失われました。もう一生笑うことはない、悲しみ泣き続けることが雅人に対して私ができることだと思われ、災害ボランティアさんとの心のずれや、同じ被害者同士の中にある心のずれが大友さんを人間不信に陥れ、「誰もわかってくれない」との思いから死のうと思ったこともあると、苦しかった胸の内をお話しくださいました。

遇われたのでした。大阪出身のお連れ合いさんのご実家が浄土真宗であったことが縁で、質問サイトに「行方不明の息子の葬儀をもし行うとしたらどのようなすれば良いのか」と問い合わせたことにより、本願寺仙台別院を訪れることになった大友さん。しかし、雅人くんは死んだのではなく見つかっていないだけだと思いたかった大友さんは、別院に行くことも雅人くんの葬儀の相談をすることも苦痛でしかありませんでした。

私もお浄土へ

二〇一二年四月には、お連れ合いさんのご実家の東大阪のお寺で雅人くんの家族葬を営まれた大友さんでしたが、それでもまだ心の中では雅人くんの死を受け

止められず、これは形だけ、雅人は見つかっていないでけだと言いつけておられたのでした。その後、ご自宅の近くの寺院からお仏壇を頂かれましたが、お仏壇は死者が祀られている所であるという思いから、雅人くんがもう死んでしまった、雅人くんともう二度と会えないのだと考えるようになったり、心が壊れそうになったとお話しくださいました。

しかし、無理やりとはいえお仏壇の前で手を合わせているうちに、どういう気持ちで手を合わせたら良いのかということを知りたいために、たまにはお寺で法話などを聞いた方が良かったのかもしれない。たのしかったです。

ある日、お連れ合いさんがお仏壇に向かって手を合せておられると、震災後に

生まれられた一歳一ヶ月の娘さんが真似をして手を合わせられたのです。その姿に涙が止まらなくなった大友さんは、「私がこんなことをしてはいけません。何のためにお仏壇に向かつて手を合わせるのかを正しく理解しよう」と、仙台別院の職員さんに尋ねられると、死者に向かつて手を合せているのではなく、自分もお浄土に行けるのだと思つて手を合せているのだということがわかったそうです。

それからさおりさんは「雅人はお浄土にいる、私もお浄土に行き、もう一度雅人に会うんだ」と思えるようになり、心から手を合わせる事ができるようになったと言われました。

次号に続く



7月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



キッズサンガ「ほとけの子ども会」

11日(土)・18日(土)
10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めをして、仏典童話を聞きながら仏教の感性を学びます。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

5日(日)・20日(月)
15:00~17:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。おやつタイムもあります。

みんなの食堂ビハーラ

8日(水)・15日(水)
17:00~19:00

年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

12日(日)
18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

「月例法話座談会」

18日(土)
14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

みんな法友こんき常例布教

今月は
お休みさせていただきます

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
仏事の事や生活の事など、なんでも気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は、
090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは
namo-yorozu@docomo.ne.jp

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

門徒推進員養成「彦根組連研」

12日(日)
13:30~17:00

申し込みをされたご門徒対象
2年間で12回の連続研修会。釈尊・宗祖の歴史や教え、荘厳作法など、浄土真宗の門徒としての教養が身につきます。

純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞していただけます。下記のQR(二次元)コードを、スマホのQRコードリーダーで読み込んでください。



YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル

今月のエコキャップ一、七五六、九八三個

今年の梅雨入りは例年より早かったですが、あまり雨が降らない「から梅雨」ですね。今月は、五、八五〇個のペットボトルキャップをお預かりしました。